

Reference 1

JP patent Application Disclosure No. 7-112910; 2 May 1995

JP Patent Application No. 5-257012; 14 October 1993

Applicant: Tokuyama Corporation

Title: Dental impression material

Claim:

[Claim 1] Dental impression material comprising a curable material paste, which is mainly composed of calcium sulphate and an organic solvent, as well as a base paste, which is mainly composed of alginate and water, characterised by containing 0.05 to 2.0 % by weight of non-aromatic carboxylate, based on the base paste, in the sterilised base paste.

[Excerpt of the descriptive part of the specification]

[0001]

[Industrially applicable field] The present invention concerns an alginate impression material, particularly a dental impression material; and provides an impression material of high agar-adhesiveness without moulds [= fungi].

...

[0014] The base paste of present invention needs to be sterilised. Known sterilisation methods are used to accomplish this. Specific methods are as follows:

- Having the base paste contain a disinfectant, e.g. hypochloric acid or its sodium salt, potassium salt, perchloric acid or its sodium salt, potassium salt or hydrogen peroxid;
- Exposure to gasses, e.g. ozone and propylene oxide; and
- Gamma irradiation.

The most preferable method of the above is the addition of a disinfectant to the base paste, since the addition of a disinfectant is a simple method. ...

DENTAL IMPRESSION MATERIAL

Publication number: JP7112910 (A)

Also published as:

Publication date: 1995-05-02

JP3471053 (B2)

Inventor(s): AKAMATSU YASUO; KATANO CHIKAKO; YUASA SHIGEKI

Applicant(s): TOKUYAMA CORP

Classification:

- International: A61K6/10; A61K6/10; (IPC1-7): A61K6/10

- European:

Application number: JP19930257012 19931014

Priority number(s): JP19930257012 19931014

Abstract of JP 7112910 (A)

PURPOSE: To obtain an impression material capable of suppressing growing of molds and consequently preservable without separating a powdery component in a paste from water and providing a material having high adhesion to agar with the result that a precise impression can be taken.

CONSTITUTION: The characteristic of this dental impression material comprises 0.05-2.0wt.% nonaromatic carboxylate such as potassium sorbate or sodium propionate in a sterilized substrate paste in a dental impression material composed of (A) a hardening material paste consisting essentially of calcium sulfate and an organic solvent such as liquid paraffin or 1-octanol and (B) a substrate paste consisting essentially of an alginate such as sodium alginate or potassium alginate and water.

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-112910

(43)公開日 平成7年(1995)5月2日

(51)Int.Cl.⁴

A 61 K 6/10

識別記号

序内整理番号

7019-4C

F I

技術表示箇所

(21)出願番号

特願平5-257012

(22)出願日

平成5年(1993)10月14日

(71)出願人

000003182

株式会社トクヤマ

山口県徳山市御影町1番1号

(72)発明者

赤松 靖生

山口県徳山市御影町1番1号 徳山曹達株式会社内

(72)発明者

片野 知佳子

山口県徳山市御影町1番1号 徳山曹達株式会社内

(72)発明者

湯浅 茂樹

山口県徳山市御影町1番1号 徳山曹達株式会社内

(54)【発明の名称】歯科用印象材

(57)【要約】

【構成】硫酸カルシウム及び流动パラフィン、1-オクタノール等の有機溶剤を主成分とする硬化材ベースト(A)、並びにアルギン酸ナトリウム、アルギン酸カリウム等のアルギン酸塩及び水を主成分とする基材ベースト(B)からなる歯科用印象材において、殺菌処理された基材ベースト中にソルビン酸カリウム、プロピオン酸ナトリウム等の非芳香族系カルボン酸塩を0.05%~2.0重量%含有させることを特徴とする歯科用印象材に関する。

【効果】本発明において、殺菌処理され且つ非芳香族系カルボン酸塩を含有する基材ベーストはかびの発生が抑えられる。また、その結果、ベースト中の粉成分が水と分離することなく安定に保存することができる。さらに、該基材ベーストと硬化材ベーストを混合練和して印象材として供給する場合に、寒天接着性が高いものが得られ、その結果精密な印象を得ることができる。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 硫酸カルシウム及び有機溶剤を主成分とする硬化材ベースト、並びにアルギン酸塩及び水を主成分とする基材ベーストからなる歯科用印象材において、殺菌処理された基材ベースト中に該基材ベーストに対して0.05～2.0重量%の非芳香族系カルボン酸塩を含有することを特徴とする歯科用印象材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、アルジネート系印象材、特に歯科用印象材に適し、かびの発生がなく、寒天接着性の高い印象材を提供する。

【0002】

【従来の技術】 アルギン酸塩と硫酸カルシウム等の2種の金属塩を主成分とする印象材は、アルギン酸塩印象材あるいはアルジネート系印象材と称されて、主として歯牙の型取りのために使用されている。

【0003】 アルギン酸塩系印象材には粉末状とベースト状の2種類がある。ベースト状のアルギン酸塩系印象材では、アルギン酸塩、水、不活性粉体等を成分とする基材ベーストと、硫酸カルシウム、硬化調整剤、有機溶媒等を成分とする硬化材ベーストの二種類のベースト状物を混合して用いられる。

【0004】 また、さらに精密な印象を探得するには寒天印象材を歯面に塗布した後、その上にアルギン酸塩系印象材を重ねて圧接する方法、つまり寒天・アルジネート適合印象法が採用される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 ベースト状のアルギン酸塩系印象材における基材ベーストには、水、アルギン酸塩を含んでいたため、かびが発生しやすい。このかびの発生を抑えるために一般に知られている防かび剤を添加する。

【0006】 ところが、かび発生を抑えることができる量の防かび剤を添加した基材ベーストを用いると寒天印象材とアルギン酸塩印象材との接着性（以下これを寒天接着性という）が低下するという問題が発生した。

【0007】 すなわち、従来のアルギン酸塩印象材では、かびの発生を抑え、しかも寒天接着性を高くする必要があった。

【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは上記技術課題を解決すべく観察研究を行ってきた。その結果、殺菌処理と非芳香族系カルボン酸塩を用いることによりかびの発生を抑え、かつ寒天接着性の高い印象材となることを見出し、本発明を完成し、ここに提案するに至った。

【0009】 すなわち、本発明は、硫酸カルシウム及び有機溶剤を主成分とする硬化材ベースト、並びにアルギン酸塩及び水を主成分とする基材ベーストからなる歯科印象材において、殺菌処理された基材ベースト中に該基

材ベーストに対して0.05～2.0重量%の非芳香族系カルボン酸塩を含有することを特徴とする歯科用印象材である。

【0010】 本発明で用いる硬化材ベーストは硫酸カルシウム及び有機溶剤を主成分とする、硫酸カルシウムとして、具体的には無水石膏、半水石膏、2水石膏等が用いられる。有機溶剤としては、デカン、ウンデカントン、ドデカン、テトラデカン、ケロシン、1-オクテン、シクロヘキサン、シクロナノン、流動パラフィン等の炭化水素；1-ヘキサノール、1-オクタノール、シトロネロール、オレイルアルコール等の脂肪族アルコール；ベンジルアルコール、メタクリゾール等の環式アルコール；ヘキサン酸、オクタン酸、オレイン酸、リノール酸等の脂肪酸、その塩またはそのエステル；ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール等の非水溶媒が好適に用いられる。

【0011】 上記硬化材ベーストにおける有機溶媒と硫酸カルシウムの配合割合は、两者および必要に応じて配合される後述の任意成分を混合してベースト状になればよく一概に決定されないが、通常硫酸カルシウム100重量部に対して有機溶媒30～70重量部の範囲にある。

【0012】 本発明の基材ベーストに用いるアルギン酸塩としては従来のアルギン酸塩印象材に用いられている公知のものが何ら制限なく使用される。具体的に例示すれば、天然のコンブから抽出し中和して得られるアルギン酸ナトリウム、アルギン酸カリウム等があげられる。

【0013】 基材ベーストにおける水とアルギン酸の配合量は、両者及び後述する任意成分を混合してベースト状になればよく一概に決定されないが、通常アルギン酸塩100重量部に対して水200～300重量部の範囲にある。

【0014】 本発明の基材ベーストは殺菌処理が施される必要がある。殺菌処理する方法としては公知の方法が採用される。具体的には、次亜塗素酸またはそのナトリウム、カリウム塩、過塗素酸またはそのナトリウム、カリウム塩、過酸化水素等の殺菌剤を基材ベーストに含有させる方法、オゾン、プロビレンオキサイド等の気体に曝露する方法、ガンマ線を照射する方法などの殺菌方法が挙げられる。これらの中で、殺菌剤を含有させる方法が単に殺菌剤を添加するだけで良好簡便で好ましい方法である。上記殺菌剤を基材ベーストに含有させる態様においては、含有させる量は殺菌に必要な量だけ添加すればよく、一般に基材ベースト中に、0.1～3.0重量%の範囲が好ましい。添加量がこの範囲を超えるとゲル化時間が遅延する傾向にあるので好ましくない。

【0015】 基材ベーストに含有させる非芳香族系カルボン酸塩は公知のものが用いられる。具体的に例示すると、ソルビン酸、プロピオン酸、デヒドロ酢酸のカリウ

ム塩、ナトリウム塩等があげられる。これらは単独もしくは混合して用いることができる。非芳香族系カルボン酸塩の含有量は、かびの発生を抑えるために有効な量だけあればよく、一般に基材ペーストに0.05~2.0重量%の範囲が好ましい。非芳香族系カルボン酸塩の含有量が2.0重量%を越えると寒天接着性が低下する傾向にある。

【0016】本発明の印象材は、本発明の目的を損なわない範囲において上記主成分以外に、他の任意成分を必要に応じて添加してもよい。

【0017】基材ペーストにおいては、ゲル化初期の粘度を高めるために不飽和カルボン酸重合体を加えてもよい。該不飽和カルボン酸重合体としては、アクリル酸、メタクリル酸、イタコン酸、マレイン酸、グルタコン酸、アコニット酸、シラコラント酸、メサコン酸、チグリジン酸、フルマル酸、アリルマロン酸、クロトン酸、ビニル酸等の不飽和カルボン酸の重合体およびそれらのナトリウム塩、カリウム塩リチウム塩、アンモニウム塩等が挙げられる。特に好ましいのはアクリル酸の単独重合体あるいはアクリル酸と他の不飽和カルボン酸との共重合体であり、共重合体の場合は、アクリル酸を5~95モル%含むのが好ましい。また、不飽和カルボン酸重合体の分子量は特に規定されないが、一般には、重量平均分子量で1000~500000の範囲のものが好ましい。

【0018】不飽和カルボン酸重合体を添加する場合は、基材ペーストにおいて、通常不飽和カルボン酸重合体100重量部に対して水が2000~30000重量部の割合になるように配合される。

【0019】更に、基材ペーストにはペーストの粘度調整のため、充填材としてアルミニウム又はケイ素等に代表される金属又は半金属の酸化物又は水酸化物、粘土鉱物等を加えてよい。該充填材の具体例として、珪藻土、タルク、シリカ、水酸化アルミニウム等が挙げられる。

【0020】一方、硬化材ペーストにおいては、印象材のゲル化を遅延させる目的でリン酸ナトリウム等のリン酸塩、あるいはシュウ酸あるいはその塩を加えてもよい。さらに、永久歯を小さくするためにマグネシア、酸化亜鉛を、またpH調整のためにケイフッ化ナトリウムやチタンフッ化カリウム等のフッ素化合物を、さらに粘度調整のため基材ペーストと同様な充填材を加えてもよい。また、硬化材ペーストにおいては、これらの粉成分を非水溶媒に分散させるために界面活性剤を添加してもよい。

【0021】基材ペーストおよび硬化材ペーストは、各々上述の構成成分をブランタリーミキサー等、攪拌羽根付きの一般的な混合機で混合するだけで調製できる。

【0022】基材ペーストと硬化材ペーストは印象を採

る前に、予め混合して、歯牙に塗布、圧接して用いられる。基材ペーストと硬化材ペーストの混合割合は、通常硬化材ペースト1重量部に対して基材ペースト1~4重量部の範囲である。

【0023】

【発明の効果】本発明において、殺菌処理され且つ非芳香族系カルボン酸塩を含有する基材ペーストはかびの発生が抑えられる。また、その結果、ペースト中の粉成分が水と分離することなく安定に保存することができる。

【0024】さらに、基材ペーストと硬化材ペーストを混合練和して印象材として供給する場合に、寒天接着性が高いものが得られ、その結果精密な印象を採得することができる。

【0025】

【実施例】以下に実施例をあげ、本発明を更に具体的に説明するが、本発明はこれらに制限されるものではない。

【0026】実施例1

各粉末及び液成分を表1に示す組成で混合してペーストを調製した。防かび試験はJISZ2911に準じた方法により行った。なお、試験菌はアスペルギルス ニゲル ATCC 9642、ベニシリウム フニクロスマ ATCC9644、クラドボリウム クラドスピロリオイデス IFOB348、グリオクララジウム ピレンス ATCC9645、オーレオバシジウム ブルランス IAMF24、等を用いた。

【0027】寒天接着性的評価は以下の方法により行った。基材ペースト2.5重量部に対して、表2の組成番号1に示す成分の硬化材ペースト1重量部の割合で23℃にて、10秒間混合練和する。その後すみやかに寒天印象材を義歯に流し、その上に上記混合練和物を圧接し、5分間放置した後に洗去し、以下に示す4段階での評価を行った。

【0028】○：硬化した印象材を曲げても全く剥がれないか凝集破壊する。

【0029】○：硬化した印象材を曲げると寒天層の厚い部分だけが界面で剥がれる

△：硬化した印象材を曲げると寒天層が全部界面で剥がれる

×：手で触ると寒天印象材が簡単に剥がれる、または義歯から離去時に義歯上に寒天印象材が残る

実施結果を併せて表1にまとめて示す。全実施例においてかびの発生がなく、かつ寒天接着性が高かった。

【0030】本実施例において、ポリアクリル酸水溶液としては20%水溶液を、過酸化水素水は30%水溶液を、次亜塩素酸ナトリウムは有効塩素5%以上のものを使用した。また、界面活性剤は日光ケミカルズ製のデカグリーン3-0を使用した。

【0031】

【表1】

表1 基材ベーストの組成(その1)

組成(重量%)	実験番号			1-1	1-2	1-3	1-4	1-6	1-7	1-8	1-9
				同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
7%ヒン酸ナトリウム +アリ酸水溶液 珪藻土ナトリウム 水酸化ナトリウム イオン交換水	3.4 5.1 13.7 0.4 17.4										
次亜塩素酸ナトリウム 過酸化水素水 デヒドロ酢酸ナトリウム アリビン酸ナトリウム ヨルヒン酸カリウム	1.0 0 0 0.1 0.1		0.5 0 0 0.1 0.1	0.1 0 0 0.1 0.1	0.5 0 0 0.1 0.5	0.5 0 0 0.5 0	0.5 0 1.0 0 0	0 0.5 0.1 0.1 0.1	0 1.0 0 0.1 0.1	0 1.0 0 0.1 0.1	
防かび性 著天接着性 界面活性	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	発生なし ○ なし	○ なし	○ なし	○ なし	○ なし

【0032】

【表2】

表2 硬化材ペーストの組成

組成番号 組成(重量%)	1	2	3
半水石膏	59.8	55.1	55.0
2水石膏	0	4.7	0
マグネシア	3.0	3.0	0
フッ化カク酸カリウム	1.3	1.3	0
酸化亜鉛	4.7	0.9	5.0
リン酸ナトリウム	1.5	2.5	0.3
珪藻土	8.5	6.5	8.0
流動剤#1	22.1	25.0	22.5
界面活性剤	1.1	1.0	0.9

【0033】比較例1

表3に示す組成で基材ペーストを調製した。実施例1と同様な方法で硬化材ペースト(表2の組成番号1)と混合練和して、ゲル化時間、寒天接着性を測定した。測定結果は表3に併せて示す。

【0034】使用したポリアクリル酸水溶液、過酸化水素水、次亜塩素酸ナトリウムは実施例1と同様である。本比較例より、殺菌処理だけではかびが発生し且つ固液

分離し、非芳香族系カルボン酸塩だけではかびの発生や固液分離に問題があり又多すぎると寒天接着性が悪くなり、非芳香族系カルボン酸塩に代えて芳香族系カルボン酸類を使用すると防かび性、寒天接着性、固液分離の全

20 ての面で劣ることがわかる。

【0035】

【表3】

表3 基材ベーストの組成(その2)

組成(重量%)	実験番号			2-5			2-6		
	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6			
アクリル酸ナトリウム +アクリル酸水溶液	3.4								
珪藻土	5.1								
水酸化ナトリウム +イン交換水	13.7	同左							
	0.4								
	77.4								
次亜塩素酸ナトリウム 過酸化水素水 デヒドロ酢酸ナトリウム	2.0	0	0	1.0	1.0	0			
アロビン酸ナトリウム リビング酸ナトリウム	0	0	0	0	0	0			
P-ヒドロキシ安息香酸エチル 安息香酸ナトリウム	0	0.1	0.1	3.0	0	0			
	0	0	0	0	0.5	0			
	0	0	0	0	0.5	0			
防かび性 寒天接着性 界面活性剤	発生あり ④ あり	発生あり ○ あり	発生なし × なし	△ あり	発生あり △ あり	発生あり △ あり	発生あり △ あり	発生あり △ あり	発生あり △ あり

【0036】実施例2
表4に示す組成の基材ベーストを調製し、実施例1と同様な方法で防かび試験を行い、さらに硬化材ベーストと混合練和し、寒天接着性を評価した。試験評価の結果も併せて表4にまとめて示す。

【0037】なお、表4中の実験番号3-1、3-2、3-3は表2中の組成番号1の硬化材ベーストと、表4中の実験番号3-4、3-5、3-6は表2中の組成番

号2の硬化ベーストと、表4中の実験番号3-7、3-8は表2中の組成番号3と組み合わせて混合練和して実験に供した。

【0038】使用したポリアクリル酸水溶液、過酸化水素水、次亜塩素酸ナトリウムは実施例1と同様である。

【0039】

【表4】

表4 基材ペーストの組成(その3)

組成(重量%)	実験番号	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8
7%+'酸ナトリウム水溶液	3.5					4.5	7.0	4.5	2.0
珪藻土	5.0					0	0	8.0	3.0
水酸化ナトリウム	13.7	同左	同左	同左	同左	15.0	15.0	12.0	12.4
イオン交換水	0.4					0	0	0.6	0.2
次亜塩素酸ナトリウム	77.4					80.5	88.0	75.9	82.4
過酸化水素水	2.0	0.5	0.1	0.5	0.5	0.5	0	0	0
デヒドロ酢酸ナトリウム	0	0	0	0	0	0	0.5	1.0	0
フローティング酸ナトリウム	0.5	0	0.1	0	0	0	1.0	0	1.0
リビング酸ナトリウム	0	0.5	0.1	0.2	1.0	0	0	0	0
防かび性 寒天接着性 国清分離	○ ○ ○	発生なし なし なし	発生なし なし なし	発生なし なし なし	発生なし なし なし	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	なし なし なし